



平成 30 年 10 月 29 日

vol.19

ヤンゴン日本人学校

武山 公之

## 吹奏楽はじめました！

みなさんこんにちは。

気が付けば 10 月も終わりとなり、いよいよ冬の足音が聞こえる時期となりましたね。また、中学校では 3 大行事の一つ『文化祭』も終わり、いよいよ中 3 生は受験に向けて正念場といったところでしょうか。こちらヤンゴン日本人学校でも文化祭に当たる『チルドレンズフェスティバル』が 20 日(土)に終わり、先週一週間は以前ご紹介した『ダディンジュ満月』で学校が休みでした。そんな中でも、中 3 生から調査書作成の依頼がどんどんきており、中学部の教員全員で点検し作成したものを家庭に配布。(ミャンマーは郵便事情が悪いため、極力進路関係書類は高校に連絡を取り、各家庭に持参してもらう形をとっています)早い生徒はこのダディンジュ休みにもう日本で受験しています。

そんな時期ではありますが、私の中でこの時期の思い出はというと…やはり吹奏楽部の定期演奏会です。文化祭、そして学力テストの最中に、自分たちの集大成を発表する演奏会。辛い思い出もありますが、その何倍もの感動を生徒たちがプレゼントしてくれました。それを忘れることができなくて…実は今年の 4 月からヤンゴンにある吹奏楽団『Yangon Brass Shwe Gita』に入団しました。一応ポジションとしては『トランペット兼指揮者』という立場です。とはいっても、トランペットはほとんど初心者も同然。人数の少ない団なので、基本指揮をしながらどうしても『トランペットの音がなければ！』という箇所だけ吹くといった感じです…もうちょっとトランペットを練習しなければと反省しています。今日は楽団が先日行った『定期演奏会』の様子を紹介したいと思います。

まず会場なのですが、日本人がたくさん住んでいるレジデンスにある『体育館』。住人は無料で借りることができるので、レジデンスに住んでいる団員の方にお願いして前日 4 時間 & 当日 4 時間をおさえもらいました。そして前日にリハーサル、当日 1 時間のゲネプロ & 1 時間 30 分の本番をこなします。写真を見て気づかれた方もいると思いますが、大人から子どもまで参加していました。吹奏楽にはいないバイオリンがいたりなど、日本では中々経験したことのない環境です。お陰で色々なことに気づくことができ、大変勉強になります。やはり『これは違うだろ！』なんて自分で壁を作らずに、何でもやってみることが大事ですね。



そして開場時間の 14:30 になるとぞくぞくとお客様が入ってくれ、あっという間に満席に。このレジデンスの住人だけではなく『音楽が好き』というミャンマーの方、そして日本人学校の園児・児童・生徒やその保護者の方々もたくさん聞きに来てくれました。本当にありがとうございました。

演奏曲目は子どもが分かりやすいようにディズニーやアニメの主題歌を多めに選曲し、ミャンマー人に『日本の曲は？』と聞くと 1 番に返ってくる『乾杯／長剣剛』と、最近若者の間で人気が出ている『未来へ／Kiroro』もいました。ちなみに…私も下手ですが『乾杯』のワンフレーズをトランペットソロで吹きました。棒を振るのはそれなりに慣れているのですが、人前で楽器を吹くのは今までにない緊張感で、何とか成功してよかったです。



日本にいる頃『音は人の心を動かすことができる』と生徒に言っていたのですが、あらためて言葉の通じない外国で演奏してみると、言葉の意味が体感できます。『上手い、下手』ではなく、一生懸命仲間と 1 つになって音を作り上げていく。そういう真摯な姿勢は、言葉の壁を越えて伝わっていくのですね。アンコール曲が終わった後の会場中の温かい拍手を聞き、そのことを感じた演奏会となりました。

それではまた来月、こちらでの生活を報告します。